

平成23年度

学校自己評価総括 表

努力目標・評価項目・具体的方策・

平成23年7月20日(水)

長崎県立北松西高等学校

平成23年度努力目標

- ◆ 生徒が学習を生活の中心に据え、自ら考え、積極的に行動ができる人材を育成する。
- ◆ 他人を思いやり、心豊かで、規律ある行動ができる人間の育成を目指す。
- ◆ 一人ひとりの進路実現のため、キャリア教育を充実し、実践的な指導に努める。

(1) 学力の充実と向上を図る。

- ① 生徒に考えさせる授業展開を図り、進路実現をはかるための学力を身に付けさせる。
- ② 毎日の家庭学習 2 時間以上を基本として、効果的な学習方法を身に付けさせる。
- ③ ことばに対する意識を高め、公の場で正しく話せる能力の育成に努める。
- ④ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。
- ④ 考査・実力テストの問題作成において、論述する問題などを入れ、記述する力を育成する。
- ⑤ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。

(2) 基本的生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める。

- ① きちんとしたあいさつや礼儀作法ができる生徒の育成に努める。
- ② 服装、身だしなみなど学校生活でのルールや時間を守る指導を徹底する。
- ③ 清掃活動などに積極的に参加する生徒を育成する。
- ④ 自転車通学など安全教育の徹底を図る。
- ⑤ 生徒一人ひとりを正しく理解し、心と心が通じ合った、いじめのない学校づくりに努める。

(3) 進路指導の充実を図る。

- ① 入学早期から生徒一人ひとりの進路意識の高揚を図る。
- ② 生徒一人ひとりの学力を分析し、学習のあり方など適切な指導ができる体制を構築する。

※ 評価について（4段階評価で実施）

- 4：十分達成している
- 3：おおむね達成している
- 2：どちらかというとは達成されていない
- 1：ほとんど達成されていない

平成22年度 長崎県立北松西高等学校 学校自己評価【総括評価表】＜中間評価＞

教育方針	◎ 明るく生き生きとした学校を創り、社会に貢献することのできる心身共に健全で調和のとれた豊かな人間の育成に努める。
努力目標	◆ 生徒が学習を生活の中心に据え、自ら考え、積極的に行動ができる人材を育成する。 ◆ 他人を思いやり、心豊かで、規律ある行動ができる人間の育成を目指す。 ◆ 一人ひとりの進路実現のため、キャリア教育を充実し、実践的な指導に努める。

本年度の努力目標

(1) 学力の充実と向上を図る。 (2) 基本的生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める。 (3) 進路指導の充実を図る。 (4) 小中高一貫教育の内容の充実を図る。

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
学校の組織的経営力の充実と向上	学校運営の円滑化	教務部 各分掌・学年・学科・教科間の意思疎通を図り、職員協力体制の強化に努める。教務に関する情報を整理し、効率的かつ継続的に活用できるシステムを構築する。	教職員が安心して仕事ができるように、計画にミスなくす。教務の計画を事前に示し、ミスがなければ「3」	2			各種会議が当初の予定通りいかず、変更することが多かった。年度末における次年度の行事予定を各分掌・学年に対し、早めに呼びかけ、調整を行う必要性を痛感している。また、「指導要録記入の手引き」作成に着手し、統一的な記入ができるようにしていきたい。
			教職員に役割が明確に伝わるように、わかりやすい実施要項を作成する。教務提出の実施要項にミスがなく、役割が明確に伝われば「3」	3			
			教職員が快適に日々の仕事ができるように備品・消耗品・周辺機器の整備をする。必要なもの・システムが整備され、日々の仕事に支障を来さなければ「3」	3			
広報活動の充実	教務部 広報活動を充実させることで、地域、保護者、同窓会、小・中学校の理解と協力を得る。	「北松西高だより」の発行。 年5回発行すれば「3」（それ以上発行すれば4） 授業参観の実施。 毎学期実施し、各学期10名以上の参観者があれば「3」（15名以上の参加で4） webページの定期的な更新。 年2回更新すれば「3」（それ以上更新すれば4）	—			従来の授業参観を授業公開と名称を変更し県の「長崎っ子の心を見つめる」教育週間の一貫であることを意識した展開とした。来校者は保護者および小中学校関係者の16名であった。「北松西高だより」webページについては定期的に発行・更新を行っている。今後、内容の見直し等、検討をし、さらに充実したものとしていきたい。	
			4				
			4				
生徒及び教職員の健康の保持増進	保健部 生徒及び教職員の健康と保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。	定期健康診断を実施し、治療及び予防に努める。受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させる。（全員の提出があれば4） 健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行なう。"計画どおり実施した。（問題解決につながるような援助ができれば4） 健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行なう。"毎月・臨時の情報提供を行なった。（計画どおり発行出来れば4）	3			検診は、スムーズに実施することができた。事後指導は、できる限り個人指導を行い、担任から保護者へ連絡してもらうようにした。特に歯科の治療報告書の提出がなされるよう、今後も指導を続けていきたい。保健室利用者は例年同様少ないが、特定の生徒が頻回来室しているので、関係職員と連携し、共通理解のもと対応していきたい。	
			3				
			4				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
学校の組織的経営力の充実と向上	施設・設備の健康・安全対策	保健部・事務部 生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める。	保健部・学校薬剤師による環境安全点検（校舎内外）を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。 点検を計画どおり実施した。 （問題点に対して速やかな対応策を講じた場合 4）	3			<ul style="list-style-type: none"> 保健美化委員会で、通常の掃除ではなかなか対応できない下足室の大掃除や各掃除区域の清掃状況の点検を行い、新たな校内美化活動に取り組んだ。 雨天時は廊下などに水滴が付着し、滑りやすくなり危険である。対応策を検討したい。
			学習環境の安全衛生点検を実施する。 点検を計画どおり実施した。 （問題点に対して速やかな対応策を講じた場合 4）	3			
			掃除の徹底 清掃活動を計画どおり実施した。 （問題点に対して速やかな対応策を講じた場合 4）	4			
多様な教育活動に対応した学校事務の推進	学校の窓口としての適切な対応	事務部 外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との連携を密にしつつ、より適切で迅速な対応に努める。	適切な来客・電話対応 挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎ、案内等の標準的な対応がスムーズにできれば 3	4			窓口としての各種対応は概ね適切に行えた。ただ、事務室職員の異動があったため、学校全体の動きに対する事務室全体としての対応力向上はこれからの課題である。
			職員室との連携と適切な対応 内外の接点として職員室との連携を意識した、適切で迅速な対応ができれば 3	3			
	適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行	事務部 法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める。	適正で迅速な会計処理 規則等に則った適正で迅速な会計処理ができれば 3	3			教育活動上支障が生じるようなことはなかったが、主担当者が新規採用者であるため事務室全体としての対応力向上はこれからの課題である。
			教育理解に基づいた予算の効果的執行 教員からの要望にきちんと対応できれば 3	3			
施設・設備の安全管理及び整備・充実		事務部 学校生活における生徒の活動・行動についての状況把握と理解に基づき、実態に即した、より効果的な施設・設備の安全管理に努める。 。教育活動の実態に基づき、適正な施設・設備の整備に努めるとともに、将来を展望した長期計画の策定により、よりよい教育環境の整備・充実を目指す。	校内巡視による実態把握 校内巡視による安全確認ができていれば 3	3			<p>昨年度実施した詳細な巡視・点検により、施設設備の状況把握は概ねできているが、4月からは巡視を行うことができず、その後の変化を把握しきれていない。今後は保健部の安全点検に基づく巡視と点検を夏季休業中に実施する予定である。</p> <p>。突発的な破損等に対しては概ね迅速に対応できた。また、従来から要求していた運動場の表層改修が本年度実施されることになったが、テニスコート改修や校舎外壁改修などの大規模改修についても機会をとらえて主管課に対し現状を伝えることができた。</p>
			突発的な破損・故障への迅速な対応 直ちに現場を確認し、対応していれば 3	3			
			整備計画の策定 長・短期的視点から整備計画策定等何らか準備をしていれば 3	4			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
多様な教育活動に対応した学校事務の推進	教育課程の充実	教務部 創意工夫を凝らした適切な教育課程の実践に務める。	目標にあった特色ある教育課程を編成する。 年間計画通り教育課程委員会が開催できれば「3」	3			理・数の新学習要領先行実施に伴い、24年度の教育課程編成に時間は要したが、生徒の進路実現に即したものとなったと思われる。今後は25年度の編成に早めに着手し、各教科に提示できるよう準備をすすめたい。
			生徒の志望進路達成に資する選択可能な講座を編成する。 年間計画通り、選択希望調査をおこなえば「3」	3			
			教育課程の編成にあたっては、定期的に点検する。 7月と3月に点検し、計画通り実施していれば「3」	3			
	総合的な学習の時間の充実	教務部 総合的な学習の時間を計画的に運営し、内容の充実を図る。	総合的な学習の時間の年間計画を立てる。学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」	3			1年生の課題レポートの研究は、全体の前で発表をする機会を高校生の早い時期に与えることにより、「伝える」という意識を育てることにつながっているものと思われる。2・3年生についても、年度末の協議通りの内容で実施されている。今後は3年間を見通した実施計画を全体で練っていく必要性を感じている。
			総合的な学習の時間を運営する。 円滑に実施できるように、実施計画を調整したり、担当者へ連絡ができたれば「3」	3			
			今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。 担当者に今年度の反省をしてもらい、それを元に次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「3」	—			
	学力の充実と進路指導の徹底	1 学年 総合的な学習の時間や個別指導を通じて、各人の進路設計を確立させる。	家庭学習の充実 毎日2時間30分以上の家庭学習時間を確保する。 (学習と生活の記録調査で50%いれば 3)	2			家庭学習の目標時間は達成しているものの、知識として定着していない生徒が多い。作業も学習と思っている生徒が多く、家庭学習の本当の意味を理解しないまま時間を使っていると考えられる。特に、成績が思わしくない生徒と面談を通して家庭学習について考える必要がある。
			学力に応じた個人指導 進路や学力に応じて、添削などの個別指導を受けるよう指導する。 (生徒が積極的に受講すれば 3)	2			
			個人面談の充実 個人面談、家庭訪問を実施する。(予定通り実施すれば 3)	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				中間	年度末	総合		
学力の充実と向上を図る	生徒の能力・適正・進路に応じたきめ細かい個別指導の徹底を図る。	2学年 学力の充実と進路指導の徹底を通して、自己認識を深めさせ、各生徒の適性に応じた進路設計を確立する。	それぞれの生徒が置かれている状況とその特性や能力を把握する。個人面談、家庭訪問をとおして各生徒を理解することができたか。	3			生徒各個人の把握は、普段の学校生活や面談をとおしてある程度できた。学習面においては、多くの生徒が1年次よりも目的意識をもち主体的に勉強に取り組めるようになりつつある。今後は、より家庭学習の質を高められるよう指導をしていきたい。	
			各生徒の学力や進路に応じた個人指導を実施する。学力充実や進路実現のために添削指導や学習会などの具体的な指導を実施することができたか。	3				
			家庭学習の充実を図る。毎日2時間以上の家庭学習時間を確保させることができたか。	3				
	学習習慣の定着	3学年 学力の充実を図るため、学習習慣の定着をめざす。	添削指導や補充指導を通して、個々の能力に応じた指導を行う。個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施できたと、教員の70%が判断した。(70%以上が判断すれば3)	3				高総体後、学習時間は飛躍的に伸びてはいるが、学習の質の向上や、休日の学習時間が伸び悩んでいる。学年全体で一致団結して学習時間の確保に努めたい。
			家庭学習の習慣化を図る。80%以上の生徒が、毎日一定時間の家庭学習の習慣がついている。(80%以上なら4)	3				
	① 生徒に考えさせる授業展開を図り、生徒の進路希望にかなう学力の向上に努める。 ② 毎日の家庭学習2時間を基本として、効果的な学習方法を身に付けさせる。 ③ ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。 ④ 学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ⑤ 考査・実力テストの間	国語	授業研究	授業計画について検討し、情報交換をする。(学期に1回できれば3)	3			
学年・学級内の学力差対策について検討し、情報を交換する。(学期に3回できれば3)				4				
互いに授業を参観し合い、意見交換を行うことで指導力を向上させる。(学期に1回できれば3)				3				
小論文指導			記述力養成のための指導を授業の中に取り入れる。(各クラスとも3回実施できれば3)	3			成果:授業においては、演習問題等を用いて記述問題に取り組みせたり、3年生では作文・小論文を書かせたりすることができた。今後とも継続して指導していきたい。 課題:「少年の主張」は夏季の課題とし、授業で推敲させ完成度の高い仕上がりを目指したい。	
			「少年の主張」を書かせる。(推敲によって内容が深まった者が7割いれば3)	—				
			書くための情報収集の方法を学ばせる。(年に1回実施できれば3)	—				
小中高一貫教育	公開授業を実施し、意見交換を行う。(年に1回以上実施できれば3)	3			成果:7月の公開授業ウィークスでは、中学校を訪問し、小説の授業を見学させていただいた。校種間の指導法の相違点を			
	各校種の現状について、情報を交換する。(年に1回以上実施できれ	3						

	題作成において、論述する問題などを入れ、記述する力を育成する。 ⑥ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。			ば3)	—			話し合うなど、研究協議も充実したものとなった。 課題:「まつかぜ」については例年通り3学期に取り組みたい。
				「まつかぜ」の制作を通して、作品を創造する喜びを体験させる。(一人二首ずつ提出できれば3)				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題	
				中間	年度末	総合		
学力の充実と向上を図る	① 生徒に考えさせる授業展開を図り、生徒の進路希望にかなう学力の向上に努める。 ② 毎日の家庭学習2時間を基本として、効果的な学習方法を身に付けさせる。 ③ ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。 ④ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ⑤ 考査・実力テストの問題作成において、論述する問題などを入れ、記述する力を育成する。 ⑥ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。	地歴	基礎学力の充実	小テストの実施	3			授業時数の関係上、対外模試の等の対策が立てられない状況である。しかしこれを利用した小テスト等を実施することによって基礎学力重視のために基礎的基本的な知識の定着を図っている。重要なので今後も継続して実施していきたい。
				対外試験対策を利用した基礎知識の定着（問題を解くことによって知識の定着を図る）	3			
		公民	公民的資質の育成	新聞記事などを随時ピックアップして、生徒に配布する。 月2回以上で3	3			時事問題などは新聞記事でふれるだけでなく、ICTなどコンピュータを用いた教材を積極的に活用していきたい。また、授業時だけでなく教室の掲示スペース等も利用して新聞記事などを掲示している。今後も継続したい。
				授業の中で社会に関する時事問題を取り上げ、紹介・解説を行う。 月2回以上で3	3			
		数	数学への興味関心を喚起する。	生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。ほとんどの生徒が取り組んだら、3	3			課題の提出は良好であった。意欲的に質問に訪れる生徒も出てきている。しかし、家庭学習が十分とはいえない生徒もみられる。さらに、学習の方法がわからない生徒も少なからず見られるので、授業や家庭学習の中で学習方法を指導していく必要がある。
			・自主的に家庭学習に取り組ませる。	定期考査前にしっかりと勉強させ、それぞれの目標以上の点数を取らせる。ほとんどの生徒が目標以上の点数を取れたら、3	3			
		学	基本的な計算技術の習得と習熟	生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や補習、課題等を利用して解かせる。ほとんどの生徒が正解できたら、3	3			問題への取り組みは良好であった。学年間・学級間で計算処理のスピードに個人差がある。今後は課題の量・質を考慮し計算能力を鍛える必要がある。
			・四則演算、整式計算ができるようになる。様々な方程式を解けるようになる。	就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。ほとんどの生徒が取り組んだら、3	3			
			図形の基本的な性質の理解	生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や補習、課題等を利用して解かせる。ほとんどの生徒が正解できたら、3	3			基本的な性質については理解はできている。しかし、論証力（証明）となるとできない生徒が多くなる。また、文章から図を書く作業が苦手な生徒が多い。今後は論証力・表現力の向上に力を入れていきたい。
			・角度を求めることができる、立体の体積や表面積を求めることができる、円の性質を理解する。	就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。ほとんどの生徒が取り組んだら、3	3			

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題	
				中 間	年 度 末	総 合		
学力の充実と向上を図る	<p>① 生徒に考えさせる授業展開を図り、生徒の進路希望にかなう学力の向上に努める。</p> <p>② 毎日の家庭学習2時間を基本として、効果的な学習方法を身に付けさせる。</p> <p>③ ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。</p> <p>④ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。</p> <p>⑤ 考査・実力テストの問題作成において、論述する問題などを入れ、記述する力を育成する。</p> <p>⑥ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。</p>	理 科	<p>毎時間の授業の充実・徹底を図り、年間指導計画の完全実施に努める。</p> <p>・3年間を見通した教育課程を考え、それぞれの学習計画を各単元ごとに十分な授業計画を練り授業に臨み、少人数の利点を発揮しながら個々の生徒の反応や理解度に対応した授業を展開する。</p>	<p>生徒の実態に合わせ各授業での学習内容の精選を図る。単元ごとの学習内容を明確にし、受講生徒全員が授業内に内容を理解できたことを確認しながら授業を進めることができたか。</p>	3		<p>理科を苦手とする生徒が増え、理系を希望する生徒が少なくなっている現状がある。実験器具や薬品等も少しずつ揃えているので、今後は実験観察をもっと積極的に行い、理科に対する興味関心を高めさせたい。</p>	
			<p>実験観察を積極的に行い興味・関心および理解を高める。</p> <p>半期に 3回以上・・・4 2回・・・3 1回・・・2 0回・・・1</p>	3				
			<p>定期的に学習内容の検討会を実施する。各学期毎に生徒の進路や理解度、指導計画の見直しなどについて検討会を実施し共通理解を図っているか。</p>	3				
			<p>学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める</p> <p>・生徒の学力を正確に認識し、それぞれの弱点を克服できるように学習指導計画を立てる。また、進路決定時期に照準を合わせ必要な学力を身に付けさせるための個別指導などを実施する。</p>	<p>週末課題を実施する。</p> <p>半期に 10回以上・・・4 7～9回・・・3 3～6回・・・2 3回未満・・・1</p>	2			<p>少人数授業の特性を生かしながら、生徒の進路希望に応じた授業を心掛けている。また進路目標に合わせて個別指導も実施している。反省点としては、授業でつまずきやすい生徒へのフォローがもっと必要であった。授業内容の見直しや課題等を利用することで改善を図りたい。</p>
			<p>小テストを実施する。</p> <p>1単元 3回以上・・・4 2回・・・3 1回・・・2 0回・・・1</p>	3				
			<p>つまずきのある生徒の習熟度と進路目標に合わせた指導をする。個別の指導を充実させ、定期試験や校外模試などでそれぞれの生徒の目標とする結果を達成させることができたか。</p>	3				

	保 体	新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。 ・新体力テストを活用し自己の体力を把握し、8分間走において積極的に取り組みタフな心を育てる。	新体力テストを実施する。新体力テストを5月までに実施し、95%以上の生徒が実施できた3	4		持久走においては、8分間走の継続により、特に3年生男子では素晴らしい結果であった。昨年度の課題であった長座体前屈では各学年において顕著な伸びであった。しかし、立ち幅とびでは記録が下がっていたので、今後の課題として取り組んでいきたい。
			新体力テスト結果の活用。テスト結果を得点化し、成績に反映させ、生徒への確に情報提供を行う。	3		
			8分間走を実施し、記録シートの作成・活用。実施率が65%以上を目指す。記録シートを使い自己記録や、通算走行距離をすることにより、自己の体力を把握し、生涯にわたり健康な生活を営む基礎体力の向上を図らせる。	3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
学力の充実と向上を図る	① 生徒に考えさせる授業展開を図り、生徒の進路希望にかなう学力の向上に努める。 ② 毎日の家庭学習2時間を基本として、効果的な学習方法を身に付けさせる。 ③ ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。	集団行動の定着 ・授業や体育的行事において、集団行動を常に心がけ生徒が積極的に取り組む態度を育む。	生徒が積極的に集団行動に取り組む。 体育委員を中心に生徒が主体的に活動し、集団行動の基本が定着しているか。	4		ほとんどの生徒が授業へ積極的に参加していると思う。2、3年生は集団行動が定着してきている。体育祭合同練習では、高校生がリーダーシップをとり行事を成功させようという強い気持ちがある。	
			生涯スポーツを見通した授業づくり。 各領域において基礎基本を身につけさせ、授業の中で成長を感じることができているか。	3			
			中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。 中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。	3			
	④ 学習のつまずきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。 ⑤ 考査・実力テストの問題作成において、論述する問題などを入れ、記述する力を育成する。 ⑥ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。	芸 術 協同的な学びの実現 学び合う関係、学びの場としての教室の雰囲気構築する。	小集団での活動の実践 3～4名の小グループによる活動を取り入れ、生徒同士の学び合う関わりが築かれた。	3		2学年では3～4人の小グループでの活動を通して、互いに意見を出し合い練習を進めていく姿が見られた。特に歌唱試験前ではそれぞれのグループが団結試合、向上心を持った活動ができた。しかし、受け身の生徒が数名いるので、より積極的な取り組みの場を設定することが課題である。器楽では発表会を随時行い、相互に磨き合う関係を築くことができた	
			〈聞き合う〉上の創出 互いに聞き合う発表などを通じて、相互に聞き合う関係が築かれた。	3			
			生徒の主体的音楽鑑賞能力向上 ・生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な干渉能力の育成を目指す	3			
		干渉と表現領域との関連性を持たせた授業の展開 鑑賞、表現の両領域を関連づけ、学習の深化を図ることができた	3		授業または授業前後の時間を利用し、表現活動に効果的な鑑賞を取り入れることができた。また、生徒相互の演奏を発表／鑑賞し合うことで曲への理解を深めることができた。しかし、鑑賞時のマナーがなっていない今後の課題である。		
		相互の演奏鑑賞や作品発表の場を設ける 生徒相互の演奏鑑賞、作品の鑑賞の機会を設けることができた	3				

			生徒の主体的音楽表現能力の育成 ・生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的な表現能力の育成を目指す	個別または小集団での実技試験の実施 個別または小集団での実技試験を実施することができた。	3		各教科、毎学期に実技試験を2回以上行うことで、目標を持って授業に取り組む姿を見ることが出来た。各クラス、個人の能力に合わせた視唱、聴音を定期的実施することができ、ソルフェージュ向上につながられた。これらを2学期以降も継続し、演奏活動に活かしていきたい。しかし、1学年は、表現・聴音の能力に差があるので個人差を埋めることが課題である。	
				ソルフェージュ向上のための取り組み 師匠、聴音、歌唱や器楽曲の解明とのお指導を実施することができた。	3			
		英	授業力向上と教科指導の充実 ・生徒一人ひとりの英語学力の向上に努める。	公開授業・研究協議の実施 授業力向上のために、公開授業ウィークスなどを利用し、積極的に公開授業や研究協議を実施し、授業力の充実に努める。実施できれば3	3			公開授業ならびに研究協議を実施し、授業についての意見を交換した。ALTとのリーディングでのTTは初めての試みなので、今後研鑽が必要である。
		語		ALTとのTTを綿密に計画し、英語に触れ合う機会を増やし、生徒の英語力の向上を図る。ALTとのTTを週2回以上のペースで実施できれば3。	3			

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
学力の充実と向上を図る	<p>① 生徒に考えさせる授業展開を図り、生徒の進路希望にかなう学力の向上に努める。</p> <p>② 毎日の家庭学習2時間を基本として、効果的な学習方法を身に付けさせる。</p> <p>③ ことばに対する意識を高め、コミュニケーション能力の向上に努める。</p> <p>④ 学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。</p> <p>⑤ 考査・実力テストの問題作成において、論述する問題などを入れ、記述する力を育成する。</p> <p>⑥ 情報化社会に対応できる生徒の育成に努める。</p>	英	英語に関する基本的な知識の習得 ・基礎学力の定着に努める。	予習の徹底 授業開始前に予習の確認を行う。 (9割以上の生徒が行っていれば3)	3		予習や課題、提出物の状況は一部の生徒を除いて良好である。継続的な指導が必要である。
				各種テストのやり直しノートの提出 各種テストのやり直しを確実に提出させる。 (7割以上の生徒が毎回確実に提出したら3)	3		
		語	英語学力と英語運用能力の向上 ・生徒一人ひとりの英語学力の向上に努める。	進路目標に応じた英語指導の充実を図る。 考査や模擬試験の結果を分析して指導に反映させる。 (効果的な指導ができれば4)	4		学年毎に進路の方向性が違うので、適宜対応していきたい。
				英語の学習方法を指導し、自己学習能力の高揚を図る。 音読を中心に、授業を使って正しい発音・アクセント・イントネーションを指導し、ネイティブに近い英語が話せるよう指導する。 また、ディクテーションやブラインドリピティングを効果的に利用し、英語力の充実を図る。(70%の生徒が英文を正しく読むことができれば3)	3		
		家	家庭生活を営むために必要な能力を身に付ける。 ・自らの生活の中から課題を見出し、問題解決能力	調理実習の献立に工夫を凝らし、基礎的・基本的な調理技術の習得を図る。(効果的な実習ができれば3)	3		成果：調理実習や被服実習については、各個人の目標を達成できているものが半数程度である。 課題：技術だけでなく、知識を習得させた上で実習を効果的に利用し、理解を深めることができるように工夫していった
				手縫いの技術やミシンの活用をとおして、簡単な和服製作を行う。(全員が目標を達成すれば4)	3		

		庭	の向上を図る。	乳幼児ふれあい体感をとおして、乳幼児に対する愛情と子育てへの理解を深める。(生徒が積極的に参加することができれば3)	—			い。
--	--	---	---------	--	---	--	--	----

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
基本的生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める	基本的生活習慣を身に付けさせる。	生徒指導部 集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。	端正な服装・頭髪を心がけさせ、清潔な容姿を身に付けさせる。毎月1回、服装頭髪検査を実施し、各自が日頃から容姿を整えることができるように指導していく。	3			服装頭髪検査は4月が52%の達成率と低かった。6月は87%まであげることができた。全職員の共通理解があり再検査まで行い充実した指導が行えた。挨拶は率先して行えるようになってきている。
			挨拶の励行。日常において自ら高校生らしい挨拶ができるように指導していく。	2			
			時間の厳守。5分前行動を心がけるように指導していく。	4			
交通マナーの遵守を徹底させる。	生徒指導部 自転車乗車マナーの向上	生徒指導部 自転車乗車マナーの向上	自転車整備を心がけ、事故防止に努める。年3回の自転車点検で合格が80%以上で3。整備不良については自ら改善していく態度を育てる。	2		1学期(4月実施)の合格率は68.3%であり、交通安全に対する意識の低さが原因であると思われる。また、7月初旬に本校生が小学5年生と接触する事故もあった。今後は、これまで以上に全職員と協力して指導していく必要があると思っている。	
			自転車乗車マナーの向上により、交通ルールの遵守を目指す。全校集会などで自転車乗車マナーについて指導し、向上を目指す。情報提供等により、交通ルールを遵守する態度を育てる。	2			
			駐輪場の整理整頓。駐輪場において各生徒の駐輪スペースを明確にし、並べて置くように指導する。	4			
学校、保護者、地域社会との連携	生徒指導部	生徒指導部 保護者、地域社会との連携により、	問題行動を未然に防ぐために、地域と情報交換を行う。各種学校・警察・健全育成会等と情報交換し、地域社会と協力して生徒の健全育成に取り組む。	4		健全育成保護者会を開くことができ、地区の情報や学校の情報と交換することができ、健全育成に取り組むことがで	

	学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。	職員間の情報交換。生徒をよく観察し、職員間で情報の共有化に努める。	2		きた。また、各先生方が生徒をよく観察し、学年、分掌、部活動などで情報の共有化ができていると思う。
		インターネットや携帯電話に関して保護者・生徒に情報伝達・指導を行う。PTA、保護者会や全校集会などにおいてインターネットや携帯電話に関する情報等を提供し、モラルの向上に努め、問題行動を未然に防ぐ。	3		
	生徒一人ひとりを正しく理解し、心と心が通じ合う教育を推進する。	生徒会 活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。	生徒の自主的活動を支援する。 行事や部活動において生徒の健全な活動を促すように適切な支援をしていく。	4	行事・集会等諸活動において生徒の主体的な働きかけが見られる部分があった。各種委員会において、過年度の反省を踏まえ新しい活動にも取り組み生徒が積極的に活動していた。
			各組織における適切な努力目標を設定する。 生徒会執行部・中央委員会・専門委員会および部活動におけるそれぞれの努力目標を設定し、達成感を体験させることで意欲の増大を図ることができたか。	3	
各専門委員会活動の活性化。 昨年度末に委員会の見直しがあり、今年度より新しい委員会が発足したので、より充実した委員会活動の思索と実践に努める。	4				

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
基本的生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める	人間尊重の精神を養う。	生徒会 学校行事や部活動などの自主的活動を通して協調性や連帯感などを深めるとともに、他を思いやる心を養う。	生徒会執行部を中心にして各行事を立案・実施する。行事終了後、生徒・職員の感想や評価をもとに、生徒会執行部で協議し、次の機会に活かしていく。	3		生徒会活動・部活動・行事その他諸活動において、最上級生は活動の規範を体現しようと努力し、下級生はその姿勢を支持して日々の活動に励んできた。特に高総体の開会式の行進については、各部が協力して取り組む中で、学校としての連帯感を育むことができた。	
			生徒会活動に一般生徒が協力する形で各行事を実施する。各行事を通して、生徒全員が一体感や連帯感を感じることができたか。	4			
			各部活動の支援・応援に積極的に取り組む。部活動に積極的に取り組み結果を出そうと頑張っている生徒を支援・応援する。	4			
悩みを抱える生徒の早期発見と対処	保健部(教育相談) 学年及び分掌との連携を密にし、 生徒の持つ問題点や悩みの解消に努める。	担任との情報交換、諸検査の活用で問題を抱える生徒を早期発見する。担任との情報交換の場を3回以上設定し、生徒の実態を知る手立てをしたら4 学年・保健室と連携し、問題を抱える生徒のカウンセラー活動を行う。学年・保健室と密に連携し、生徒の実態を知る機会を3回以上持つことができたら4	担任との情報交換、諸検査の活用で問題を抱える生徒を早期発見する。担任との情報交換の場を3回以上設定し、生徒の実態を知る手立てをしたら4	3		成果：悩みを抱える生徒について、職員フォルダに入力用シートを作成し、全職員が閲覧したり入力したりすることができるようにした。担任を中心に当該生徒の状態を詳細に記入していただいたため、適切に情報をやりとりすることができた。今後とも継続していきたい。課題：悩みを抱える生徒の進路先確保に向けて、担任や進路部との連携を密にしていきたい。	
			学年・保健室と連携し、問題を抱える生徒のカウンセラー活動を行う。学年・保健室と密に連携し、生徒の実態を知る機会を3回以上持つことができたら4	3			

生徒の意識と実態の把握	保健部(教育相談) 機会をとらえて、生徒の実状をつかみ、効果的な指導を行う。	諸検査・各種調査を実施し生徒の実態をつかむ。計画通りに諸検査・各調査を実施し、その結果の報告を行うと4	4	成果：1年生では、4月にテストバッテリーを実施し、生徒の知能や性格の傾向をいち早く知るとともに、担任を始め全職員に回覧することができた。課題：テストバッテリーに関する研修を行うことができなかった。次年度に向けて検討していきたい。
		個人面談や問題を抱える生徒との面談を行う。個人面談やカウンセリング活動を実施したら4	4	
		諸検査・各種調査の有効的な活用をはかる。諸検査の見方・考え方や各調査の分析結果を全職員で研修できたら4	3	
特別支援教育に関する研究および実態把握	保健部(特別支援) 特別支援教育について教員の研修に努めるとともに、特別支援を必要とする生徒の実態把握に努める。	特別支援教育に関する職員研修の実施。専門の講師による特別支援教育研修を実施したら4	—	・職員研修は9月実施予定(講師依頼済み)、実態把握調査はそれまでに実施予定。・学力面だけでなく社会適応面について、支援の必要な生徒の実態把握・対策についても今後検討していく必要がある。
		特別支援教育を必要とする生徒の実態把握。職員会議などで、職員全体に特別支援教育を必要とする生徒の実態把握をうながしたら3	3	
自律の精神をもち、学校生活に積極的に臨む姿勢を確立する	1学年 自身の生活習慣を自主的に確立する。	① 端正な服装・頭髪への心がけをもたせる 服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。(90%の生徒が合格すれば 3)	3	多くの生徒が素直に教員の指導に従い、生活習慣が乱れている生徒は少ない。しかし、自ら積極的に行動できる生徒はまだ少ないように思える。少しずつ積極的な行動がとれるよう指導を心がけていきたい。
		② 挨拶の励行 積極的に挨拶を行う。(日常的に挨拶を行う姿勢があれば 3)	3	
		③ 清掃活動への積極的な取り組みをうながす 清掃活動に対し積極的に取り組む。(80%以上の生徒が取り組めば3)	3	

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
基本的生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める	集団の中の「個」としての積極的な行動	1学年 高校生としての自覚を持たせ、状況に応じた判断・行動がとれるようにする。	学級活動への積極的な参加 ホームルーム活動に積極的に参加している。 (各係活動が日常的に機能していれば 3)	4			強いリーダーシップを発揮するような生徒は少ないものの、集団としては一致団結して協力するような姿勢が伺える。リーダーとして集団を引っ張っていく生徒を学校生活の中で生まれてくるよう今後指導に気をつけていきたい。
			部活動への積極的な参加 生徒が積極的に参加している。 (日常的に80%の生徒が活動していれば 3)	4			
			学校行事への積極的な参加 積極的に参加し各学年と協力できた。(協力的な姿勢が見られたら3)	4			
学校生活でのルールや時間を守る指導を徹底する。	2学年 校則を守り明るく充実した学校生活を送り、社会に通用する人間形成を図る。	端正な服装・整髪を心がけさせる。 毎月の頭髪服装検査において80%の生徒が合格するか。	3			1年次と比べると服装頭髪検査で指導される生徒は確実に少なくなってきた。ただし、全員が合格できているわけではない。検査のためではなく普段の生活から自分で身だ	
		人と接するときのマナーの向上を図る。 目上の人と接するときの言葉遣いや態度が身についているか、また決	3				

			められた時間を見越した行動ができていますか。 自転車通学での安全性とマナーの向上を図る。 自転車の安全整備をきちんと行うことができたか。	2		しなみを整える意識を持たせたい。自転車通学のマナーや整備については、まだ指導が徹底できていないと感じる。粘り強く指導を続けることで、改善させたい。
基本的な生活習慣および落ち着いた生活態度の育成	3 学年 基本的な生活習慣を身につけさせ、社会に対応できる人物の育成をめざす。	安易な欠席をしないよう指導する。月間の遅刻・欠席者数がクラスの10%以下である（10%以下であれば4）	4		安易な遅刻や欠席もなく、3年生としての自覚が見えてきたように見える。容儀面でも指導を受ける機会がほとんどなくなってきた。清掃活動においては各々が自覚を持って取り組んでいる。	
		社会生活に対応できる容儀の指導を行う。各学期2回服装検査を実施し、90%の生徒が検査項目を守っている（90%以上なら4）	4			
		清掃活動を徹底させる。毎日の清掃活動に生徒の90%以上が真剣に取り組んでいる（90%以上なら4）				
進路指導の充実を図る	学力の向上	進路指導部 補習・学習会・模試などを通して学力の向上をめざす。	補習に積極的に取り組ませる 怠惰による遅刻・欠席者がいなければ 4 5%増えるごとに評価を下げる	4	・生徒は、休むことなく補習・学習会に参加しており遅刻もほとんどない。模擬試験は、部活動の大会等と重なっても臨機応変に対応し、予定していたものは全員に進路希望に合わせた模試を受けさせることができています。各教科で事前の模試対策や事後の解説も適宜指導していただいている。 ・実力も徐々に上がってきていることが窺えるが、目標意識を持たせ学力の向上につなげていきたい。	
模試を計画的に実施し、活用する 部活動の大会や急な諸行事に対応し、受験予定者全員に無理なく受験させることができれば 4	4					
模試情報の提供と利用 各教科で模擬試験の事前・事後の指導を徹底してもらう。過去問・本試験の解説がなされていれば 4	4					

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
進路指導の充実を図る	進路意識の向上	進路指導部 情報の収集・提供を通じて生徒の能力・適性に応じた進路目標を確立させ、その達成をめざす。	進路講演会の実施 専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施する。生徒の満足度が高ければ 4	—		・進路希望別説明会は、昨年度よりも保護者の参加率は低くなってしまったがそれでも6割程度であった。生徒と保護者が進路について話し合う良いきっかけになったと思う。 ・進路情報の発信については、個別/学年/全体などに分けて言っている。進路指導室については十分な設備を整えて頂いたため、今後の活用方法が課題である。	
			進路説明会の実施 職員で検討した資料をもとに進路希望別に説明会を実施し、生徒・保護者の満足度が高ければ 4	3			
			進路情報の提供 「進路だより」等の配布物・クラスや進路室の掲示物・生徒個別の情報提供など、できるだけ多くの適切な進路情報を紹介できれば 4	3			

	生徒の希望進路を達成する。	進路指導部 各検討会においてより効果的な進路指導・教科指導を計画・実施する。	進路検討会の実施(3年生) 進路検討会の結果を基に、それぞれの生徒に適切な進路指導ができれば 4	3		・担任による面談だけではなく普段から授業や日常的な会話の中で進路について指導されていると思う。今後も情報を共有し各生徒の希望進路については、全市の共通理解の元指導していきたい。 ・教科の個別指導も3年生を中心に多くの生徒に行われており充実してきた。今後は、小論文・面接の指導に取り組んでいくことになるのでさらなる協力体制を築いていかなければならない。
			学力検討会の実施(全学年) 学力検討会の結果を基に進路指導・教科指導の見直し等ができれば 4	—		
			希望進路に合わせた個別の指導 全職員が協力し、教科・面接・適性・接遇・作文等の指導を充実させることができれば 4	4		
	進路希望の実現	3学年 個々の進路目標を明確にし、進路達成に向けての取り組みを充実させる。	生徒が必要とする情報を適宜提供し、進路意識の向上を図る。80%以上の生徒が具体的な進路目標をもつことができた(80%以上であれば3)	3		個人面談を頻繁に行い、生徒の実情を把握するよう努めたが、未だに進路を決定できない生徒もいる。夏期休業の前に進路目標を明確にし、充実した生活が送れるように支援していきたい。
			個人面談・三者面談を実施し、家庭と学校との共通理解のもと進路指導を行う。各学期2回以上面談が実施できた。(2回以上実施すれば3)	3		
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高一貫教育の推進	教務部 小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す。	小中高一貫教育に関する会議日を設定する。 毎月1度「小中高会議日」を設定できれば「3」	3		歓迎遠足・海浜清掃ともに天候に左右され、開始時間を遅らせたり活動場所の変更を行ったりしながらも実施することができた。両行事とも高校の場合は主担当が生徒会であり、二重の連絡調整を要するので、情報・連絡の整備を考えたい。
			小中高一貫教育に関する行事を設定する。小中高一貫の行事を年間3回以上設定できれば「3」	3		
	小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める。	生徒会 少子化が進行する中で、小中高一貫教育の利点を最大限に発揮できるよう行事や部活動のあり方を変革していく。	共同行事を再検討し、よりよいものにしていく。昨年度実施された行事の反省を元に、小中高で十分に協議を重ね実施計画をたてる。 事後の反省をまとめ次年度に活かせる資料を作成する。一貫教育として行ったことの効果や反省点をまとめた資料を作成し、それぞれの校種の職員が共通に理解できるように努める。	3 3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	評価			成果と課題
				中間	年度末	総合	
小中高一貫教育の内容の充実を図る	小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を進める。	2学年 中堅学年としての自覚を持たせ、地域に開かれた明るい校風の樹立を目指すように指導する。	学級活動への積極的な参加を図る。クラス委員や係・清掃・その他の学級活動に積極的に参加していたか。	4			各行事や部活動への参加意識は極めて高い。また役員等にも自ら進んで立候補する積極性が見られた。合同体育祭では積極的に学年で話し合いをおこない、お互い協力しながら行事を作り上げていく雰囲気や育ちつつある。今後は行事・部活動を通して、学校の中心的存在としてのリーダーシップを身に付けさせたい。
			部活動への積極的な参加を図る。日常的に90%の生徒が積極的な活動ができていたか。	4			
			学校行事への積極的な参加を図る。積極的に参加し各学年や小中学生と協力できたか。	4			

学校行事におけるリーダーシップの発揮。	3学年 最高学年としての自覚を促し、学校行事においてリーダーシップを発揮させる	学校行事や部活動を通して、リーダーシップの発揮を促す。行事に積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できた(教員の70%以上が発揮できたと判断すれば3)	3		部活動を通して、最上級生としてのあり方を学ぶことができた。体育祭合同練習においては、リーダーシップを発揮しようとする姿勢が見られるが、まだまだ具体的に行動に移せていない点もある。今後とも後方支援をしながら見守っていききたい。
小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を進める。	理科 小中高の職員で学習内容や行事・地域での活動などを精選する、また教育課程の見直しも含めて十分な検討をする。	小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。小中高12年間を見通した系統的・継続的な理科教育を進めるための情報交換と学習内容検討の場を各学期に1回はもつ。	4		今年は「物理」をテーマに年間の公開授業・研究授業を計画している。前期に行われた公開授業では、教材研究や指導法について有意義な意見交換ができた。後期に実施される研究授業ウィークを通して、より深く関わりを持ちながら12年の理科教育を充実させていきたい。
		シラバスを作成し、計画に基づいて実施する。 シラバスを作成し、ほぼ計画通り実施・・・4 シラバスを作成し、7割程度実施・・・3 シラバスを作成したが実施できなかった・・・2 シラバスを作成しなかった・・・1	3		
		公開授業の実施。 小中学校理科担当も参加し、 2人とも年1回以上・・・4 2人とも年1回以上・・・3 1人のみ年1回以上・・・2 全く実施されず・・・1	3		
郷土学習を進め、郷土を愛する心を育てる。	家庭科 各校種において地場産物や郷土料理にふれる機会をつくり、郷土についての知識と愛着を深める。	地場産物を使った調理実習を行う。(1回の調理実習で、小値賀産の食材を2種類以上使用できたら3)	4		成果：調理実習では毎回地場産物を使用することができた。小値賀でとれた野菜などの生鮮食品は、旬で安価で新鮮であるだけでなく栄養価も高い。今後も積極的に取り入れていきたい。 課題：調理実習で使用する野菜や魚など小値賀の産物を紹介したり、或いは調べ学習を行ったりして、郷土について理解を深める機会をつくりたい。
		小値賀の特産品や農作物を知る。(調べ学習を行い、小値賀の特産品や農作物についてまとめることができれば3)	2		
		郷土料理教室の実施。(地場産物を用いて、郷土料理を完成させることができれば3)	—		
小中高間での連携の活発化	家庭科 共同の授業研究を行い、小中高で連携を図って段階的な学習内容や行事を検討する。	共同の授業研究を行い、小中高の教科の連携を深める。(1時間以上の授業研究を3回以上行うことができれば3)	2		成果：中学校では2.5単位のうち2単位はT・Tの授業を行うことができおり、上手く連携が取れている。 課題：小学校とは公開授業以外に授業研究を行うことができていないので、これから連携を深めていきたい。
		教材・授業案の蓄積、共有化を図る。(年間を通して、効果的な授業のデータ化、教材の蓄積ができれば3)	2		